

日野市立教育センター所報

教育センターだより

第32号 平成26年3月20日発行



2月20日・午後
調査研究事業発表会

日野市立教育センター

〒191-0042

日野市程久保550

TEL 042-592-0505

FAX 042-592-1148

開館時間 午前8時30分
～午後5時15分



丘のうえに

日野市教育委員会 教育委員 岡本 力

日野市を緩やかに蛇行している浅川を渡り、程久保橋から多摩丘陵の丘を登って、市内が一望できるところに「教育センター」と「郷土資料館」があります。独立した二つの施設が同じ建物に入っている姿は市民が期待する「ひのっ子教育」を象徴するようにも思えます。宅地化が進んだ多摩丘陵のこの丘を訪れると様々なことが思い浮かんできます。

もう随分前のことですが、日本技術士会が主催してオーストラリアの若手エンジニアとの交換プログラムが実施されました。自宅でホームステイしていたエンジニアをある日曜日に、この丘のすぐ近くの百草園へと案内しました。設けられた茶席に立ち寄ると、座敷の開け放たれたところから見通せる庭の向こうに、白い短冊がひらひらと風に揺れています。一服頂いた後、二人で近づいてみると、手入れされた木々にぶら下がる短冊がなんとも言えない風情で、その短冊には子供たちの短歌もしたためられていました。また、三人の娘たちが通った旭が丘小学校の学芸会にも誘いました。照明が落とされた体育館で、家族・地域の方々のあの特有のざわめきに囲まれ、彼は身を乗り出して鑑賞し、オーストラリアの子供たちと同じように楽しい、貴重な時間だったと話すのです。その夜、子供たちの教育について語り合い、私は先生方への感謝と地域に根ざした公教育の大切さに思い至りました。

開校140周年行事が重なった昨年、祝賀に集まった往年の地域の教育関係者が語る様々なご苦勞をお聴きすると、教育環境で大切なものは先生方と地域力であり、更にそれを継承、進化させることである、ということにも納得しました。市内のある小学校では「学校とこの地域が大好きな人に」と掲げて、実践していますので、地域の自然を注意深く観察し、人々の営みをしっかり吸収した子供たちが成長し、やがてふさわしい時と場所を得て花開く希望があります。

私が中国のODAに携わり、昭和60年から北京・上海を含む中国24都市の水道視察と技術交流をし、責任者としてある省都の大きな新設浄水場を担当した時のことです。最前線で水道局の方々と計画・設計について、激しい議論を交わしていました。例えば、水道システムは各地域で水源が異なります。水処理もそれにふさわしい技術がありますが、単に技術的な要素（日中の設計基準等）のみではなく、その地域特有の飲料水（水質）における歴史と文化を考慮する必要があります。日本と違うのは、中国の都市では蛇口からの水はそのままは飲まないということでした。日本というローカル（地域）な所で育った技術・運転制御を海外で根付かせるには、異文化を尊重し、その地域に馴染ませていくことが必須です。ODAのプロジェクトにおいてローカルな独創性が基盤になり、それをインターナショナルな場で十分議論し、互いに磨き上げることの重要性を学びました。

現在、多くの場でグローバリゼーションの光と影が議論されていますが、「世界市民教育」が期待されています。世界へと挑む「日野人」をめざして、地域で継承された知恵を学び、育み、その蓄積されたものが「ひのっ子」たちをたくましく育て上げ、異なった文化の社会と共存していくための静かな力になっていくでしょう。

平成25年度 日野市立教育センター行事の報告

わかば教室 音楽会

平成25年12月6日（金）
日野市立教育センター 講堂



わかば教室では、毎年2学期の大きな行事として音楽会を開催しています。この音楽会には、日野市教育委員会、在籍校の先生方、教育センター所員、保護者を招待し、練習の成果を披露しています。今年度は、「チキンライス」、英語詞の「Happy Xmas」を合唱し、「WISH」を演奏しました。子供たちは、苦勞して取り組んできた練習の成果を発表でき、また、たくさんの方々からの拍手をいただき、大きな喜びと成就感を得ることができました。

当日は、似田順子さんによるバイオリンによるすばらしい演奏「情熱大陸」「虹の彼方に」「宇宙戦艦ヤマト」「G線上のアリア」「彼こそが海賊」「エトピリカ」など5曲を披露していただきました。

平成25年度 日野市立教育センター

調査研究事業発表会

平成26年2月20日
日野市立教育センター 講堂



調査研究事業発表会は、2月の1回のみとなり、2年目を迎えます。今年の調査研究事業発表会は、松澤茂久所長の挨拶の後、①理科教育推進研究 ②郷土教育推進研究の2つの調査研究の発表が行われました。

各事業の詳しい活動内容は、本センター便りの3～4ページをご覧ください。
また、本センターの事業をまとめた教育センター紀要は、5月にWebサイトで公表されます。

平成25年度 日野市立教育センター

第2回 運営審議会

平成26年2月27日
教育センター 会議室



本センターには、その運営について必要な事項を審議するために運営審議会（学識経験者など8人で構成）が設けられています。この度、本年度第2回目の審議会が行われ、3部・7系の事業の評価と課題、展望について、審議がなされました。

来年度は、本審議会の審議結果・提言、教育委員会・市内幼稚園・小学校・中学校各校等の意見及び調整を経て、新しくスタートすることになります。

I 調査研究部

1 理科教育推進の研究（理科教育推進研究委員会）

教科等教育係

一日野市の理数フロンティア校の活動―

今年度から理数フロンティア校（日野市では理科のフロンティア校として申請）事業が始まりました。日野市の理科フロンティア校は日野第四小学校と七生中学校です。

（１）理数フロンティア校の役割と研究

東京都が提示した理数フロンティア校の役割は右図をご覧ください。

（２）理科フロンティア校の活動

① 日野第四小学校

研究主題：「学ぶ楽しさの実感と自ら学ぶ意欲の向上を目指して」

～地域の自然を生かして、

問題解決できる子どもの育成～

研究の概要：問題解決の学習過程を身に付けさせる指導の工夫として ・問題意識を高める ・獲得した知識の活用・事実をもとに考え交流する ・思考力、表現力の工夫の四点を念頭に研究を進めました。

研修： 6月21日（金）第3学年「風やゴムのはたらき」（CST講座）

10月11日（金）第4学年「もののあたたまり方」（CST講座）

8月 2日（金）夏季理科実技研修会（実験の基礎等）

理科教育公開講座：1月17日（金）

- ・3～6年生全学年で、1学級以上で理科の授業を実施
- ・講演会・・・「理科授業について」

講師：帝京大学客員教授 太田 由紀夫 先生



② 七生中学校

研究主題：「ユニバーサル

デザインを取り入れた理科の授業づくり」

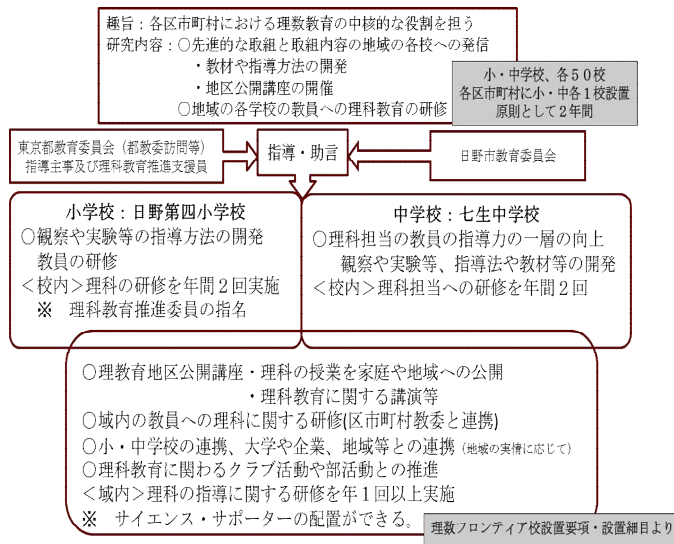
研究の概要：発達障害のある生徒にとって分かりやすい授業や実験は、全ての生徒にとっても分かりやすいものになると考え、授業や実験の「視覚化」「焦点化」「共有化」を重点項目に研究を進めました。

研修：7月11日（木）第3学年「力のつり合い」授業者：高崎 紀昭 教諭（校内研究授業）

9月11日（水）第2学年「化学変化と原子・分子」授業者：高治 圭吾 主任教諭
（市内小・中学校の理科教育研究会による合同授業）

家庭・地区公開講座：1月11日（土）

- ・授業 第1学年「フックの法則」 授業者：前田 博 主幹教諭
- ・講演会・・・「南極の自然」講師：気象庁気象観測器検定センター 靱島 宏治 先生



2 郷土教育推進の研究（郷土教育推進研究委員会）

ふるさと教育係

1. 郷土教育の普及・啓発と研究発表会

郷土教育推進研究委員会では、「ふるさと日野」に誇りと愛着をもった「ひのっ子」を育成するため、成果の普及・啓発に努めています。その一環として、1年間の研究の成果を毎年2月に発表しています。今号では2月20日に発表した3つの事例について報告します。

2. 研究発表会報告事例（幼稚園、小学校）

(1) 日野の昔話に親しむ（日野第三幼稚園・第四幼稚園 年長児）

昨年度から幼小連携を充実させるため、幼稚園での郷土教育を推進しています。幼稚園周辺に伝える「昔話」「伝説」に興味・関心をもち、小学校の郷土教育につながると考えます。第三幼稚園では絵本「ひのっ子 日野宿発見」（市教委 平成23年）を教材に、日野宿の「トンガラシ地蔵」、「八坂神社・筆塚」、「宝泉寺・持ち上げ観音」等を訪ねました。現地でゆかりのある方からお話を聞く活動は、「伝説」「昔話」を身近に感じ、地域への親しみと興味・関心が高まります。第四幼稚園では、高幡不動金剛寺に伝わる昔話・伝説をもとに自作の紙芝居教材を作りました。子供たちの興味・関心を高めてお寺を訪ね、僧侶から「はだかりゅう」「はたかけのまつ」のお話を聞きました。このように、幼稚園では「絵本」「紙芝居」の視覚教材が有効で、園外保育の時間を活用し現地を訪ね、お話を聞くことにより、さらに地域に親しみをもち、興味・関心が高まることがわかりました。（実践 三幼 富尾真須子、四幼 石川星子）



(2) 豊かな自然「カワセミ」（日野第八小学校 第3学年 道徳）

昨年度から道徳教材で「郷土愛」の育成に取り組んでいます。日野市の鳥「カワセミ」を教材として取り上げることで、「カワセミ」に込められた市民思いや願い、人の生き方を学ぶことができます。カワセミを通して「環境保全」「自然愛」さらに「郷土愛」の育成につながると考えます。本授業では、「カワセミ」を題材とし、身の回りの豊かな自然のよさに気づかせ、身近な自然を大切にしようとする態度を育成することがねらいです。導入では、「カワセミ」でデザインされた日野市のマンホールや橋のフェンス等に気づかせます。展開では、自作読み物教材を活用し、浅川の水がきれいになりカワセミが戻ってきたことを知らせ、カワセミが見たいという強い思いや願いをもたせました。さらに地域の自然を大切にするために、自分に出来ることはないか振り返りました。終末では、教師が日野市の清流ポスター等を活用し、日野市の鳥に「カワセミ」が選定された経緯や意義について説明し、子供たちは感想をまとめました。「カワセミ」を見たいという強い思いを、地域のクリーン作戦につなげること、「日野市の花・菊」「日野市の木・カシ」についても教材開発をするということが今後の課題です。（実践 重末祐介）



(3) 探ろう田んぼのパワー ～豊田という地名から～（日野第二小学校 第5学年 総合）

日野第二小学校の前に「豊田用水」が流れ、「耕地整理記念之碑」が建っています。さらに、石神様の「おしゃもじさま」があります。このことから、豊田の人々の日常生活は、水田による米づくりが中心であったことがわかります。この米作りの秘密をとく鍵が「豊田」という地名にあるのではないかと考え、授業の構想を立てました。「つかむ」段階では、耕地整理記念之日の碑文を読み、「豊田」の地名に込められた地域の人々の思いや願いについて考えました。「追究する」段階では、地域の方々と、田起こしから収穫、もちつきまでの作業を共に体験します。子供たちは農作業を通して、地域の方々とふれ合い、地域への愛着や自然環境を守ろうとする気持ちをはぐくんでいきます。「まとめる」段階では、1年間の学習を振り返り、豊田の人々の思いや願いについて考えます。お世話になった地域の方々をお招きし、学習発表会を開催します。この地域の方々とは、いつまでも米作りを通して関わりをもち、地域を大切にしたいと願っています。（実践 松本美代子）



3 ひのっ子教育21開発委員会

基礎調査研究係

<社会科部会>

研究主題 問題解決的な学習を通して主体的に社会に参画する力を育てる

1 社会科部会では、日野市の重点である ICT の効果的な活用、特別支援教育、幼保・小・中の連携の視点を踏まえ、問題解決学習を通して主体的に社会に参画する力を育てることをねらいとし、この一年間、授業研究を重ねてきました。

年間を通して、聖徳大学教授廣嶋先生のご指導をうけ、問題解決的な学習を以下のように捉え、社会科における魅力ある授業作りを実践してきました。

- ① 好奇心や切実感、感動や驚き、疑問や矛盾などを基に学習問題を設定する。
- ② 既存の知識や技能を活用して予想を立て、追及の見通しをもつ。
- ③ 問題解決に必要な情報を集め、調べ、考えて問題を追及する。
- ④ 調べて考えたことを整理し、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。
- ⑤ お互いの考えを伝え合い、協力して解決の方向を見いだす。
- ⑥ 社会の形成に参画する観点から、自分の考えをまとめ学習したことを生活にいかそうとする。

2 研究発表会

2月14日(金)ひのっ子教育21開発委員会研究発表会 午後1時50分～ 平山小学校

① 公開授業 13:50～14:35

○4年1組 授業者 南平小学校 久保田 聡 教諭

単元名 「世界とつながる東京都」

東京都に暮らす人々の生活や産業と、国内の他地域や外国とのつながりを調べ、東京都の特色をまとめ発表することができることをねらいとする授業でした。当日の授業は、東京都の特色について予想し、調べるための学習問題を作ることであった。平山小学校の先生方が東京に出てきた理由を予想し、学習問題を作ることにつながることができました。

○5年1組 授業者 日野第五小学校 亀田 貴彦 教諭

単元名 「環境を守る人々 生活環境を守る」

北九州市の公害克服の取り組みにと国民の健康や生活環境とのかかわり、生活環境を守る人々の努力や工夫について、資料などを活用して調べ、国土の環境が人々の生活や産業と密接な関連を持っていることを考えさせることをねらいとする授業でした。当日の授業では、北九州市の大気汚染の変化を調べ、興味・関心をもち学習課題を設定することができました。

○6年2組 授業者 大坂上中学校 高橋 信也 教諭

単元名 「世界の人々とわたしたち 日本と世界のつながり」

日本とつながりが深い国々の人々の生活の様子を調べることを通して、世界の人々と共に生きていくためには、異なる文化や習慣を理解し合い、おたがいを尊重していくことが大切であることをねらいとする授業でした。児童は興味を持って他の国を調べることができました。

② 研究発表会及び講演会

講師 聖徳大学 教授 廣嶋 憲一郎 先生

演題 「問題解決的な学習の充実に向けて」

～小・中連携の視点から～



<理科部会>

研究主題 理科学習における問題解決能力・科学的に探究する能力の基礎の育成

1 魅力ある授業づくりプロジェクトに基づき、理科部会では目指す魅力ある理科授業の姿と実現のための課題、学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校段階では問題解決の能力の育成、中学校段階では科学的に探究する能力の基礎を育成することを目指すことが、魅力ある理科授業を創造するためには大切であると考え、この一年間授業研究を重ねてきました。

年間を通して、東京大学特任教授 日置光久先生のご指導を受け、理科における魅力ある授業づくりを実践してきました。

① 身に付けさせたい問題解決能力・科学的に探究する能力の基礎の明確化

○各学年で育てたい能力を明確にした授業実践を行いました。

○既習事項やその後の学習のつながり、各単元で身に付けさせるべき科学的な概念、科学的用語を明確にしました。

② 問題解決能力・科学的に探究する能力の基礎を育む学習過程の工夫

○観察・実験前後の言語活動と体験活動である観察・実験の結びつきを大切に学習過程を重視しました。



2 研究発表会

2月14日(金)ひのつ子教育21開発委員会研究発表会 午後1時50分～ 平山小学校

① 公開授業 午後1時50分～2時35分

○4年3組 授業者 平山小学校 池田 貴美子 教諭

単元名 「もののあたたまり方」

問題解決の学習過程の「実験後」の「考察」から「結論」にいたる授業でした。スタディノートに記録しておいた、前時の「空気の温まり方」を調べる実験方法とその結果をグループで共有し、考察をし、導き出した結論を発表ボードに表示し、全体で結論を導き出す授業でした。

○5年2組 授業者 滝合小学校 清水 智 教諭

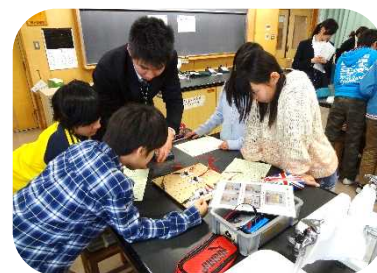
単元名 「ふりこのきまり」

前時で行った実験結果のまとめを学級全体で共有し、自分の仮説と関係付けて「振り子のきまり」について考察し、自分の出した結論を、実際に振り子を使って班や全体に説明し、全体で結論を導き出した。その後、振り子の利用をデジタル教材や実物で示し、おもちゃ作りへとつなげる授業でした。

○6年1組 授業者 平山中学校 遠藤 拓郎 教諭

単元名 「電流とその利用」

小学4年生の電池の直列・並列つなぎの学習の発展として豆電球2個の直列・並列つなぎによる豆電球の明るさの違いを、電流や電圧に目を向けて定量的に調べ、結果を科学的に考察する授業でした。中学校の先生が行う授業で、1時間の授業の中に「実験前」「実験」「実験後」としての事象提示から結論を導き出すまでの問題解決の過程が盛り込まれた授業でした。



② 研究発表会及び講演会

講師 東京大学大学院教育学研究科 特任教授 日置 光久 先生

演題 「これからの理科学習に求められるもの」

※発表会当日はあいにくの大雪にもかかわらず多くの先生方が参加してくださいました。

Ⅱ 研修部

教職員研修係

若手教員の育成に取り組む教育センターの活動

教育センターは、若手教員の育成に取り組んでいます。

今年度は、研修部専任4名と他の職務を兼任する所員6名の計10人で分担し、若手教員の授業観察及び指導を行いました。

研 修 名	人数 (小学校) (中学校)	担当する指導内容
若手教員育成研修 (1年次)	36名 (21名) (15名)	年3回の授業観察及び指導の実施
若手教員育成研修 (2年次)	41名 (22名) (19名)	年1回の授業観察及び指導の実施 ・ 夏季研修
若手教員育成研修 (3年次)	30名 (25名) (5名)	年1回の授業観察及び指導の実施 ・ 夏季研修

1 若手教員育成研修

(1) 1年次若手教員

年3回、担当する初任者のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行いました。指導の観点としては、学習指導案が適切に作成されているか、教材に対する理解が十分にあるか、説明や発問が的確で分かりやすいか、板書が丁寧で、計画的なものであるか、児童・生徒と良好なコミュニケーションがとれているかなどの点で、担当所員は、よかった点や課題を示し、次の授業に向け、改善策を話し合いながら若手教員の指導に当たっています。

3回目の授業観察の頃には、若手教員にも落ち着きがでてきて、児童・生徒の表情や動きから理解の度合いを把握しつつ、授業を進めていくといったゆとりも見られるようになりました。この1年間の成果と課題を自分なりにまとめ、次年度に向けた研修を深めて欲しいと思います。このように所員は1年目の教員として身につけるべき基礎的・基本的な知識・技能の習得を行うべく、指導、助言を行っています。



(2) 2年次及び3年次若手教員

年1回、2年次及び3年次若手教員のいる学校を所員が訪問し、授業観察及び指導を行いました。担当所員は2年次教員に対して、1年次における研修の成果と課題を踏まえ、授業のねらいが明確で、授業展開に工夫のある学習指導案で授業に臨み、授業後には授業評価を行い、改善策を考えていけるように具体的に指導しています。教科指導における生活指導のありかたにも触れ、より実践的な指導力をつけていくためのアドバイスもしています。3年次教員には、課題解決的、より実践的な授業を行うように、そして、児童・生徒の疑問や要求にも多面的に対応できる力をつけていくためのアドバイスをしています。また、外部との連携や学校の組織的な動きにも触れながら指導助言に当たっています。



2 夏季研修 (2年次・3年次)

8月27日 日野第一中学校を会場にして、2年次が午前、3年次が午後と、半日単位で若手教員育成研修が開催されました。研修会では、2年次教員は11グループ、3年次教員は9グループに分かれ、各自が一学期に実践した指導事例をDVD等に記録したものを使って発表し、授業展開の方法や教材教具の工夫、改善すべき課題等についてグループ協議を行いました。グループ協議では、授業改善につながる様々な意見や方策が出され、魅力ある授業作りを目指すことができました。



担当所員は、午前と午後の一日、グループ協議に参加し、発表事例の授業や児童・生徒理解の悩み等について指導助言を行い、それぞれ課題をもって2学期に臨むように励ましました。

Ⅲ 相談部

日野市立教育センターの相談部には、一般教育相談係と適応指導（わかば）教室運営などを行う学校生活相談係が設けられていて、教育相談事業を行っています。

1 一般教育相談

一般教育相談係

～確実な適応を目指して～

本年度の活動

（１）教育相談の状況（平成２５年４月～平成２６年１月）

本年度、１月末までの相談回数は合計２，２０５回で、前年度の同時期よりも３２４回多い結果でした。

来室(継続)相談			電話相談		合 計
面接・親	面接・子	電話面接等	子どもこころの電話相談	一般教育相談	
７７５	３１１	８９０	２８	２０１	２，２０５

このうち来室相談回数が全体の約８９．６％を占めました。本年度の来室相談は、昨年度からの継続５５ケースと新規に受付けた２８ケースでした。合計８３ケースのうち、これまで１８ケースについて、相談主訴の状況が解消または改善されたり、専門的な医療機関等を紹介したことで相談を終結することができました。

（２）教育相談室１０年の状況

本年度は、教育センターが開設（教育相談室設置）されて１０年目でした。この間には、日野市に特別支援教育推進チームや発達支援室が設置され、教育相談室でも連携を図りつつ、就学相談や発達に関する相談にはそれぞれを紹介するようになった経緯があります。１０年間の相談状況からは、以下のことがみられます。

- ① 子どもこころの電話相談は、平成１６年度は６０回ありましたが、ここ数年は年３０回前後になりました。一般教育相談（電話）は、各年度とも概ね２００回前後です。
- ② 来室相談について、件数は、平成１６年度から平成２１年度まで減少し、その後は微増状況です。一方、回数は、平成１９年度まで増加し、その後、極端な傾向はみられませんが、１０年間に相談１件当たりの平均相談回数が倍増し、相談主訴の重度・重複化や緊急性の高さ、社会環境の変化などの影響が推察されます。

教育相談室では、こうした状況も踏まえて相談員の研修を進め、相談者の立場に立って学校や他の相談・支援機関との連携も図りながら、ていねいな相談を心がけていきます。

（３）ケースカンファレンス（研修）の紹介

ケースカンファレンスは、相談員が受ける研修の一つです。

本年度のスーパーバイザーには、大学教授（臨床心理士）と大学カウンセリングセンター職員（臨床心理士）をお願いしました。毎回、一人を招聘し、適応指導教室のカウンセラーも参加しながら年８回程度行っています。主に、事例をとおして協議を進め、スーパーバイザーからの細部にわたる具体的な指導や助言を受けて、以後の相談時の見立てや困難ケースへの対応などに活用しています。

2 学校生活相談

学校生活相談係・わかば教室

学校生活相談「わかば教室」の活動

学校生活相談係(わかば教室)は、学校生活における精神的な悩みや人間関係での不安、不登校・登校渋り等、児童・生徒の環境をめぐる問題や通室する児童・生徒に対しての相談・指導・援助、及び不登校問題に関する状況把握・情報提供や助言等を行ってきました。

「わかば教室」の主な活動は次の通りです。

1 教育活動

(1) 丁寧な生活指導

指導員は本教室の支援方針に沿って、児童・生徒の状況を掴み、個々の理解のもとに、よりよい人間関係や健康な身体づくり、望ましい生活習慣の確立等を目指して丁寧に指導しました。安全指導を徹底し事故防止にも努めました。通室生の多くは表情が明るくなり、挨拶や友達との会話も生まれ、友達と時程に沿って行動できるようになりました。毎日、朝や昼休みには、皆でスポーツを楽しんでいます。

(2) 個に応じた学習指導（5教科を中心にした学習タイム）

学年や学習進度、児童・生徒の思い等を考慮して個別時間割を作成し、個別または小集団による基礎的な学習の指導・援助を行いました。また、パソコンでの eラーニングを活用した学習を、自分のペースで楽しそうにかつ意欲的に学習する姿も見られました。

(3) 楽しい体験活動（わかばタイム・行事）

「わかば教室」では、年間を通して幅広い体験活動を行なっています。

1月は書初めと餅つきを楽しみました。体験活動には、いつも参加人数が多く、笑顔・活気、時には涙溢れる感動がありました。活動参加から学習参加へ、集団の輪の中へと適応の幅・質も高まっています。



パソコンを活用して学習



書初め大会



餅つき

2 教育相談活動

カウンセラーが、通室する児童・生徒と定期的に継続して面接を行いました。また、随時保護者や在籍校とも相談しています。多くの児童・生徒がカウンセリングを受けたことで精神的に安定し、目標を持った生活や高校受験に向けての努力をするようになりました。更に保護者との密な連絡・相談がよい結果を生んでおり、重要性がますます増しています。

3 学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力

以上の活動は学校・家庭・地域・関係機関との連携・協力に支えられています。児童・生徒の活動には、地域の方やボランティアの学生等の協力が大きいです。一般教育相談室とも日常的に連携し協力しています。

今年度も年度途中からの通室者が増え、2月末現在、小学生9人・中学生40人・計49人が通室しています。部分登校者や学校復帰者も増えました。しかしながら、通室生の多くは乗り越えなければならない課題を多く抱えております。今後も児童・生徒の理解に努め、目標を持って向上していけるよう援助するとともに、学校に戻れる児童・生徒が一人でも多くなるように学校や家庭、関係機関との連携・協力を強めていきたいと思ひます。

「e-ラーニング」を活用した学習支援

登校支援員

今年度は、2月末現在 38 名の児童・生徒が e-ラーニング「ひのっ子学習システム」を活用し、学習しました。わかば教室 e-ラーニングは、他の教科学習・集団学習と共に学習習慣を身につけさせるものとして定着しています。

わかば教室に通室している児童・生徒は、年間を通し週二日（固定学習日：月曜日・水曜日）e-ラーニングを活用した学習をしています。固定学習時間の設定は、e-ラーニング学習時間に間に合うように通室を促すとともに、学習意欲の維持・継続となり、学習の積み重ねができよう配慮しています。

わかば教室 e-ラーニング学習時間では、e-ラーニング担当者が個別学習課題取り組みへの支援をしています。つまずきのある学習やあまり学習してこなかった内容を基礎から学んだり、各学年の教科の内容も進度に応じて選んで学習できるシステムなので学力への不安が軽減されます。さらに、学習したいという意欲の芽生えは、学校復帰へのきっかけや進学への希望の一因となっています。

☆わかば教室見学者は、固定学習日に e-ラーニング体験学習をすることが可能ですが、事前に曜日と時間の確認をしてください。

不登校改善へ向けての取り組み

登校支援コーディネータ

1、不登校傾向の改善へ向けての取り組み

不登校傾向の子供達の状況把握、改善のための情報提供、手立て作成の支援を行ってきました。

基本はサンライズプロジェクトの提言に沿っています。本年度は、各学校で作成する適応状況調査記録表が不登校改善に役立つ内容に改善されました。その要点は、校内支援委員会を生かし、今月の対応を評価し、来月の対応方針を立てていくことです。関連機関においても子供の状況が把握しやすくなり、それぞれの子供の状況改善に役立つものとなりました。

登校支援コーディネーターは、記録表の内容を吟味し、教育相談室や適応指導教室、子供家庭支援センター等の関連機関と連携し、一人ひとりに有効な手立てをとることが出来るよう支援に努めてきました。

2、学校訪問

市内 25 校全校の学校訪問を前期・後期にわけ、教育相談室・わかば教室と合同で行ってきました。また、各学期に、教育相談室・適応指導教室との合同連絡会を設け、個に対応する手立てを探りました。登校支援コーディネーターは、その後の経過を確認したり、各月の適応状況調査記録表から気になる兆候のある子供についての詳しい状況把握のため、独自に学校を訪問し、支援に努めました。学校の担任と家庭を訪問し、状況改善のきっかけになった例もあります。

3、まとめ

2月現在、不登校の生徒は、昨年に比べ減少しています。今年度の取り組みをさらに進め、状況に応じた居場所作り等も検討しながら、改善を図っていきます。

教育資料・広報係より

教育センター・Web サイトの紹介

日野市研究奨励校の研究の成果や各校の研究概要を紹介

1 教育情報センターとしての機能の充実

本教育センターでは、学校や教員の児童・生徒の指導や学校運営に対して必要な情報を随時提供できる“教育情報センター”としての機能の充実を進めています。

教育センターWebサイトはそのうちの1つとして力を入れています。このサイトでは、主にセンターの日常的な活動の報告や教育相談、学校生活相談の活動の紹介を行っています。

2 日野市公立学校の研究成果の公開

本サイトの特色としては、日野市内の公立小・中学校が進める研修活動の成果を広く紹介していることがあげられます。「日野市公立学校の研究紀要・集録の紹介」という形で、研究の内容を概要で紹介しています。また、日野市教育委員会研究奨励校（本年度は5校）の発表会の日程や研究紀要の集録の概要と共に、PDFファイルの形で、紀要・集録の冊子や当日の公開授業指導案をダウンロードできるようにしています。

2月27日現在、平成22・23・24・25年度公開の小・中学校研究紀要・集録の合計ダウンロード回数は11019回を超え、日野市内外からの教員、研究機関の教育の実践的な研究の資料として活用されています。

今後とも、本センターのWebサイトの充実をしていきます。

研究紀要等各種資料のメニュー

- ・ ひのっ子教育 21 開発委員会報告
- ・ 教育センターの活動報告
 - 教育センター紀要
 - 教育センター便り
- ・ 郷土教育指導資料
 - 第1集～8集
- ・ 日野市立小・中学校校内研究集録
- ・ 要覧

新しく購入した本の紹介(昨年11月購入)

○本センター内教育図書資料室でご覧いただけます。また、市内教職員につきましては貸出しいたします。

- | | | |
|-----------------------|--------------|--------|
| ・ あなたが守るあなたの心・あなたのからだ | 森田ゆかり 著 | 童話館出版社 |
| ・ 子どもの心理臨床へっちゃん君 | M. サンダーランド 著 | 誠信書房 |
| ・ 感情を抑圧した子どものために | M. サンダーランド 著 | 誠信書房 |
| ・ ハティは親切大きらい | M. サンダーランド 著 | 誠信書房 |
| ・ 怒りや憎しみにとらわれた子どものために | M. サンダーランド 著 | 誠信書房 |
| ・ 市制50周年記念決定版写真集 | | |
| 保存版ふるさと日野・日野市全域 | | 郷土出版社 |